

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成24年10月発行

第121号

発行所

和歌山県看護協会

〒641-0036

和歌山市西浜1014-27

TEL:073-446-0605

FAX:073-446-0899

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

木村 佐多子



写真撮影：広報委員

CONTENTS

- 地区支部だより 2～3
- ふれあい看護体験 4～5
- 保健師のコーナー 6
- 助産師のコーナー 6
- 看護師のコーナー 6
- 専門認定看護師のコーナー
（トピックス 2012） 7
- 地域連携のコーナー 7
- 医療安全数珠つなぎ 8
- 私の〇〇 8
- リレーエッセイ 友達の輪 8
- My Hospital 9
- 「職員の禁煙対策について」 9
- まちの保健室 10
- 「和歌山県看護教員養成講習会を
開催しています」 10
- 「ワーク・ライフ・バランス推進
ワークショップ開催」 10
- 事務職 西ノ様退職 11
- 和歌山県看護協会の動き 11
- 看護研修センター建設推進委員会報告 11
- プレゼント 11
- 知って得する看護協会だより 12

和歌山県看護協会 会員数

平成 24 年 10 月 19 日現在

会員総数	5,517 名
名誉会員	2 名
保健師	126 名
助産師	202 名
看護師	4,850 名
准看護師	337 名

地区支部

伊都地区支部

支部長 小松 仁美

平成 24 年度地区支部総会および研修会を 7 月 7 日（土）に開催しました。研修会のテーマは、「最新の褥瘡ケアについて」公立那賀病院 皮膚・排泄ケア認定看護師の久保乃英先生を講師に迎え、最新の褥瘡対策の実際をお話いただきました。日頃、ケアをしているなかで褥瘡発生の原因になっていることもわかり、改めてケアの基本を学ぶことができました。

次回の研修会は老人看護月間行事として予定しています。



那賀地区支部

支部長 曾和 とも子

7 月から那賀地区支部長の役を受けさせて頂き、会員の皆様のご協力ご指導を頂きながら、2 年間地区支部活動を精一杯頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

6 月 30 日（土）那賀地区支部総会が開催され、その後の研修会では、介護老人保健施設 ラ・エスペランサ 中林 聡先生の『今日から生かせる認知症患者の対応』近年、高齢化社会のため、高齢の患者さんが増え、認知症患者さんの対応にはどこの施設の皆様も困っているのではないのでしょうか。中林先生の話は、事例に基づいての話で、認知症患者さんの対応がリアル的に理解できとても勉強になりました。



和歌山地区支部

支部長 木村 美登利

8 月は、地区支部の行事はありません。

役員会では 9 月の老人看護月間「出前健康チェック」と 10 月の地区集会に向けて準備中です。夜勤明けのスピンを気にしつつ、写真のように「楽しく、元気に、効率よく」をモットーに役員一同頑張っています。



海南・海草地区支部

支部長 上田 陽子

平成 24 年度地区支部総会及び第 1 回研修会を 6 月 30 日（土）海南市保健福祉センターにおいて開催し、総会 125 名、研修会 134 名の出席がありました。

研修会では、和歌山県経営者協会マナー研修講師の岩橋梨恵先生に、「病院職員としての接遇のありかた ～あいさつ そこにあなたの姿勢が表れます～」をテーマに講演して頂きました。具体的に、分かりやすく、明日からの職場で直ぐに活かせるなどの意見が多く好評でした。



だより

有田地区支部

支部長 小原 喜代子

6月30日にきびドームで、平成24年度有田地区支部総会および第1回研修会を開催致しました。研修会は、関西医療大学保健看護学部准教授の和田幸子先生をお招きし、「認知症の基本的な知識と対応について」の講演をして頂きました。

認知症の病態生理から、認知症の方への具体的な対応方法等、講師の先生の実体験も交えての講演でした。

参加者も多く、「自らの対応を考える機会となった。」等の意見がありました。



日高地区支部

支部長 西岡 倫代

日高地区支部では、6月31日に平成24年度支部通常総会及び第1回研修会を御坊保健所で開催しました。

研修は、「疲れたからだを元気にしよう!」というテーマで“歌って笑って楽しい健康づくり研究所代表 くわばらみ先生”より職場でも実践できるストレッチを指導して頂き、リフレッシュを図りました。今後の予定として、11月に老人看護月間行事をします。



田辺地区支部

支部長 林 弘子

7月7日に支部総会及び第1回研修会を開催しました。

「病院と地域をつなぐ看護について学びたい」との声があり、田辺圏域保健医療介護の連携体制の構築をすすめる会代表の初山昌平先生に「病院と地域との連携」と題して、講演していただきました。地域住民が住みなれた地域でいきいきと暮らせる為のキーワードは、「顔の見える関係」と話されました。看護職員も研修会等に気軽に参加し「顔の見える関係」を築いていきましょう。



新宮・串本地区支部

支部長 小林 一太

支部総会並びに第1回研修会を6月30日(土)に開催しました。

研修会は、「災害看護」と題して、和歌山赤十字看護専門学校の畑下眞守美先生を招いて講演をして頂きました。なんとといっても当地区は、昨年の台風12号で大被害に遭い、被災された会員もいました。そんな中、災害時の看護には大変な関心があり、参加者も多く、先生の豊富な体験を含んだ講演は分かりやすく大好評でした。11月10日、2回目の研修会を予定しています。



宇都宮病院

ふれあい

参加者の感想

那賀高等学校 酒井 博美

看護の仕事はすごく大変そうだなと思った。けれどやりがいもあり、将来は看護師になろうと強く思った。患者さんは、寝たきりの人もいてお世話が大変だけど、誰かがやらなければいけないから、看護師さんはすごいなと思った。お食事のお手伝いをさせてもらい、簡単だろうと思っていただけ、意外と難しかった。患者さんとお話しできて楽しかった。お風呂に入れてあげたり、いろいろお世話をしなければいけないし、大変な仕事だけど、患者さんの笑顔が見ればうれしいしやりがいもあって、看護の仕事はすごいなと思った。実際に体験してみて、「看護はしんどい」ということがわかった。力もいるし体力もいる。けれど看護師になる。患者さんの力になれるような看護師になりたい。笑顔を絶やさない看護師になりたい。

施設側の感想

短時間で体験出来る事はほんの一部でしたが、病院とは、看護師の仕事とはこんな感じだと少し分かってもらえたようです。今回の参加者は皆、看護学校の受験志望で、その夢を膨らませる体験になっていれば嬉しく思います。

比留井 泰子

愛徳医療福祉センター

参加者の感想

和歌山東高等学校 辻本 郁

生まれつき障害を持った人々の世話はすごく大変そうだったけど、笑顔で接しお世話をしてる人たちがいっぱいいました。食事を見させてもらおうと、口で食べられない人は鼻や、お腹にチューブを通し食事をしていました。

お昼ご飯を見ると皆一人一人少し違い、かめる人は野菜そのまま、かめない人は野菜をゆでて柔らかくしたものを用意していたり、すべての食事をお汁状態までにしていたものもあり、スプーンも人それぞれ違ったことがわかりました。

障害のある人のために訓練している人たちがいて、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がいました。

施設側の感想

看護学校に進学を決めている生徒さんではなく、介護や訓練の分野にも興味があるとのこと、センター内のいろんな部署を見学してもらいました。進路を迷っている様でしたが、介護や医療の現場で、誰かの役に立つ仕事をしたいという夢をかなえられるように頑張ってください。

施設側の感想

当センターは、重症児・者の生活の場であり、その生活を支える「医療の場」です。

利用者の方と交流を持ち、利用者さんに笑顔を引き出せて、少しでも障害児・者のことを知ってもらえた事はいい機会になりました。

小浦 由加里

私は、人の役に立てる仕事をしたかったので、ふれあい看護体験を愛徳医療福祉センターで体験出来て本当に良かったです。



野上厚生総合病院



国立 南和歌山医療センター

和歌山つくし医療福祉センター

参加者の感想

橋本高等学校 下田 花琳

“福祉”という名前だったので、興味のある進路ということもあり、応募しました。実際に体験してみると、利用者さんは本当にいきいきとしていて、話しかけてくれたり、ドライヤーをしてあげると「ありがとう」と言ってくれたりとてもやりがいのある仕事であることが感じられました。

また、指導して下さった看護師さんは、自分がどんな風にして看護の道に進んだのかや、看護師の大変さ、楽しさなど本当にたくさんのことを教えてくれました。

私がまだ看護の道に進むか福祉の道に進むか、また別の道に進むか迷っていると言ったときも「いろいろ経験してみるのもいい」と言ってくれたり進路の相談にのってくれました。私はまだ看護や福祉の道だけでなく、他にも興味のある仕事があり、まだまだ悩んでいます。でも今回の体験を通して、看護や福祉の仕事をもっと知りたいと思うようになりました。きっと楽しい仕事ではないことも、命を預かるということでも大切な仕事であることも分かっています。

いろんなことを経験・体験して、自分にあった自分のやりたいと思う仕事に就けたらいいなと思います。

看護体験

野上厚生総合病院

施設側の感想

今回担当した学生3名が、初めての体験ということで緊張した様子でしたが、少しずつ笑顔も増え積極的に取り組んでいました。私自身も指導することが初めてで緊張しましたが、改めて看護を考える良い機会となりました。

宮下 亜子

参加者の感想

海南高校大成校舎 東原 侑里奈

何もかもが初めての体験で、興味津々で楽しい1日でした。患者さんの体を拭かせていただいた時などは、上手に拭けていたのか分からず不安もありましたが、患者さんからの「ありがとう」の一言が嬉しくて、もっと何か役に立ちたいと思いました。

私が、今日体験したことはほんの一部ですが、人と触れ合うこと、看護師さんの笑顔とやさしさ、そしてこの仕事の大変さを少なからず実感しました。

まだまだこれからですが、看護師になろうという自分の夢に近づけるよう努力していきたいです。

済生会有田病院

済生会有田病院

参加者の感想

有田中央高等学校 清水分校 上久保 亜希

今までは、お見舞いにしか病院に来たことがなかったので、具体的な看護師としての仕事はあまり分かっていませんでしたが、体験をしてみて少しですが仕事の内容がわかりました。患者さんの手や足を拭かせていただいたときに、何か話をしようと思っていてもなかなか声をかけることができませんでした。

管を通しての食事は、はじめに空気を入れて音を確認めるということが、実はとても大切だと知りました。

今日で更に看護に興味が持てました。

施設側の感想

今回は、4校から8名の方に、保清やコミュニケーション、食事介助、人形を使いBLSなどを体験して頂きました。緊張で固かった表情が、終了時には笑顔も見られ、少しでも「看護」の実感を体験していただけて良かったです。

西井 祐子

南和歌山医療センター

参加者の感想

耐久高等学校 松栄 春奈

今日は1日、とても貴重な経験をさせていただきました。血圧測定や車イス体験、患者さんとのふれあいや、患者さんの体を洗わせていただいたりしました。私にも、おばあちゃん、ひいおばあちゃんがいる、お世話をしたりするけど、体を洗うのは初めてだったので、とてもいい経験になりました。患者さんとお話をすると、私もつい笑顔になるし元気をたくさんもらえました。中には私と同じ学校の方もいて、大先輩と会うことができ、本当にうれしかったです。

私の姉も日本赤十字に通っていて看護師を目指しており、家で姉が勉強している姿を見ると、とても大変そうで、やっぱり看護師になるのをあきらめようかなと考えていました。しかし、今日1日いろんな体験をさせてもらって、やっぱり看護師という職業はいいなあと思いました。今日の体験のおかげで、そういう思いができたので、本当に感謝しています。

看護師のみなさんも大変いそがしいのに、優しく接していただけてうれしかったです。

今日は南和歌山医療センターに来て、たくさん体験をさせていただいて、とても良かったです。

今年の夏休みは遊ぶのを少しひかえて、勉強に専念しようと思います。

今日は本当にありがとうございました。この体験は一生忘れないと思います。お世話になりました。

施設側の感想

患者様とのコミュニケーションは、初対面なのでむずかしかったと思います。でも、ベッドサイドに行き声をかけている積極的な姿も見ることができました。看護師になることを目標にしているとのことで、病棟の中の設備や看護用品にも関心を持っていました。又、患者様の観察もできていたと思います。

足浴、車イス介助を体験してもらいましたが、車イスの操作も理解できていて感心しました。

塩崎 千草

保健師のコーナー

保健師職能委員 井 樋 こすえ



今年度より、産業分野の保健師職能委員として活動してまいりますので、よろしくお願いいたします。

昨年は、保健指導ミーティング事業を、職能委員の方々と共に 準備から関わらせていただき、私にとって大変貴重な体験となりました。

皆さんの職場では、保健師の仕事は何か理解したうえで雇って来ていますか。保健師の仕事は、個別の保健指導や対象者への支援だけでなく、集団としてどのような対策が必要か、あるいは効果的かを見極めて、施策を提言していかなければなりません。それには、現状把握とともに今までの対策

の評価をして、エビデンスに基づいたデータの裏づけが必要になります。PDCAサイクルで保健活動を実践できたらよいのですが、このような業務が保健師の業務として組み入れられていなくて、保健師にそれをしてほしいという要請がない職場もあるかと思います。

私は、平成21年4月より国保連合会で仕事をしていますが、特定健診・保健指導事業では、PDCAサイクルによる事業の実践が求められています。これを保健師のチャンスととらえて、どのような保健活動もこのようなかたちで実践できたらと思います。そういう私も、PDCAサイクルを実践する能力がまだまだ足りていないと日々実感しています。皆様とともに学びあえたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

助産師のコーナー

助産師職能委員 橋 爪 見千代



助産師職能委員も二年目となりました。委員会を通じて、私自身も大変勉強になっています。

特に、前年度思春期教室を担当したことが、7月におこなわれたふれあい看護体験を指導するにあたり役に立ちました。今回、六名の参加者があり、私は約一時間担当し、学生の要望であった「沐浴」を実施しました。看護学生も実習に来ていたので、一緒に模型の赤ちゃんを使い行いました。沐浴の時は熱心に、興味深く見ていました。

授乳室で円座に座って、産後の体のことを知ってもらったり、授乳用のクッションも体験してもらいました。

特に好評だったのは、生後一日目の赤ちゃんを抱っこしてもらったことです。「赤ちゃんの体重がこんなに重いとは知らなかった。」「肌がぶにぶにしていたかわいい。」など率直な感想がありました。赤ちゃんを抱っこすることで、赤ちゃんの肌に触れ、人の温かさを感じ、命の重みも感じてもらったのではないかと思います。

最後に、助産師の仕事について話をさせてもらいました。出産に立ち会う素晴らしさ、自分の命の大切さ、自分の誕生と両親への感謝の気持ちなどの話をしました。

将来、助産師の仕事に興味を持ち、助産師を目指してくれれば光栄です。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 葛 葉 理 香

看護師職能委員として活動させていただき、2年目になりました。はじめは職能委員会がどのように活動しているかも分からず不安な気持ちで委員会に参加していました。

委員会で他施設の看護師職能委員会の方々と今抱えている様々な問題について意見を出し合う中で、看護の現状や問題などを意識的に考えるようになりました。

今年度からは看護師職能委員会が看護師職能委員会Ⅰとして病院領域、看護師職能委員会Ⅱとして介護・福祉関係施設・在宅などの領域という2つの領域にわかれ活動しています。私は病院に勤務しているので看護師職能委員会Ⅰの所属になります。病院と施設・在宅の連携は重要なことだと日々感じていますので、今後、看護師職能委員会Ⅱの方にいろいろと

現状を教えていただき病院と施設・在宅の連携などが深まり、私自身も看護の質の向上につながればと思っています。

委員会は看護師職能委員会ⅠとⅡが合同で開催する月と、それぞれ独自に開催する月とありますが、月に1回開催されています。委員の人数も増え以前より一層、看護師職能委員としての活動内容が深まると思います。職能集会や認定看護師研修会なども企画しており、普段の仕事とは違う経験ができる貴重な機会になっています。

看護師職能委員として現場のみならず意見を集約していく役割があります。私たちの取り組みについて知っていただき、関心をもってご意見をもらえるように、今後も努めていきたいと思っています。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 林 法 子



今年度より、看護師職能委員会Ⅱの活動に参加をさせていただいています。「職能委員に」と電話を頂いたとき、職能委員の活動内容もわからず、本当に自分で良いのかと不安に思いながらの参加でしたが、委員長から看護協会の動向や、全国の職能委員会の活動状況などを聞かせて頂き、協会

や委員会の活動を身近に感じるようになりました。また、今年度の職能委員会Ⅱの事業計画の活動目標が「介護・福祉関係施設で働く看護師の資質の向上」ということで、期待もふくらんでいます。

今は、昨年度のアンケート結果をふまえて介護施設で働く看護師の資質向上を図るためにどのような研修が良いのか考えていくことになり、介護・福祉関係施設で働く看護・介護職の資質向上を目指した出張研修を計画しているところです。

まだ、委員会は始まったばかりですが他施設の方々と話すことで、職場の情報交換ができ自分にプラスになることがあり、この職能委員会活動を通じて、他施設の方々の現場での問題や活動内容などを聞かせて頂きながら、現在の自分の施設の現状と照らし合わせ、情報交換ができ多くのことを学べるよい機会にしたいと考えています。皆さんよろしくお願いいたします。

「リハビリテーション領域の活動や最新情報等」

和歌山県立医科大学付属病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 古賀 麻裕子



この「脳卒中リハビリテーション看護」は2008年にスタートした新しい認定看護師の領域です。そこで、今回は脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割と活動を紹介したいと思います。

脳卒中リハビリテーション看護の主な対象は脳卒中を発症した患者およびその家族で、急性期から回復期・維持期と病期を越えて看護を考えていきます。

急性期で重要なのは「重篤化回避」と「早期離床・リハビリテーションの開始」だと考えています。脳卒中発症直後は状態がとても変化しやすい時期だといえます。そのため状態の変化を予測し意識や神経徴候をモニタリングすることで重篤化回避に努めています。また不必要な安静は患者にとってマイナスになるといわれています。そこで患者の状態を観察し予測することで安全な離床を支援しています。またベッドサイドでの関節可動域訓練や座位訓練な

どは身近にいる看護師が行う大切なリハビリテーションだと考えています。

回復期・維持期で重要なのは「生活の再構築」と「再発予防」だと考えています。脳卒中を発症した患者の多くは運動障害や意識障害を始めとする後遺症を抱えて生活をしていかなければなりません。そこでその障害を少しでも改善させ残存機能を活用することで、ADLの拡大を図っていくことが重要です。その患者のできること・できないことを評価しどうすれば少しでもできるようになるのか方法や道具の活用を考え、患者の生活がより良いものになるように一緒に生活の再構築を考えていきます。また、その患者の再発の危険性を考え、再発予防について患者・家族に指導しています。

認定看護師としてまだまだ未熟ですが、これからも脳卒中患者・家族のそばに寄り添い、専門的な知識と技術を活用して看護していきたいと思っています。また医療チームの一員として他職種と連携し患者・家族にとってのより良い医療の提供に貢献していきたいと思っています。

地域連携のコーナー

海南市民病院の地域連携室の紹介

地域連携室 大谷 千佳子



当院は、地域の中核医療機関としての病院機能を十分に発揮できるよう、近隣の医療・福祉機関と連携をとる事を目的に、平成17年に地域連携室を設置しました。

地域連携室は、医師1名、看護師2名、MSW1名、事務2名、事務局の担当者1名で前方連携と後方連携を中心に業務を行っています。

前方連携として、地域の医療機関からの診察や入院依頼を受け、担当医への連絡・部屋の準備・診察場所の確保などの調整を行っています。紹介患者さんが受診された後は、来院報告書をFAXし、詳細は診療情報提供書にて報告しています。地域の医療機関からの紹介患者様の受け入れは、100%を目指しています。

後方連携は、専従である看護師とMSWが中心に行っています。

入院時に記入された「退院支援スクリーニングシート」より病棟看護師と退院調整看護師とが退院調整の必要性を

判断し、退院支援計画書を作成しています。

以前は退院について話をすると、「病院から追い出される」や「主治医に退院とは聞いていないのに」などと言われましたが、市民への広報活動や主治医の協力・退院調整看護師の細やかな関わりにより、かなり少なくなりました。患者・家族が納得し、安心して療養生活を送ることができるようになるには、今後もさまざまな支援が必要だと考えます。

その他の業務として、紹介患者数や逆紹介率の把握、紹介元の医療機関の洗い出しを行い問題点があればまず地域連携室のメンバーで検討し、病院全体で検討しなければならない問題については、地域連携対策委員会に提案します。

また、地域の開業医と当院の医師が、年3、4回症例検討会や研修会を行うことで、顔の見える連携が出来、患者様に継続した医療を提供しやすくなりました。

今後、「困ったときは、地域連携室に」と言われるぐらい、地域連携室が病院の顔となれるよう頑張りたいと思います。

医療安全

数珠つなぎ

済生会和歌山病院

医療安全管理室 澤田 康幸



私は平成 21 年 4 月に医療安全管理室の室長となり、4 年目に入りました。その間病院内の医療安全における問題の把握・改善に努めてきました。様々な対策を講じることで効果的なものもありましたが、再び繰り返すものもありました。

ミス・事故はゼロになることはありません。今後はさ

らに患者参加の医療安全に力を注ぎたいと考えています。医療安全は毎日の積み重ねが重要です。これからも‘コツコツ’と‘地道’に頑張っていきます。

次回号に紹介させていただく方は
新宮市立医療センター 医療安全管理者（看護副部長）
坂本 美弥 様です

私の



《看護って？》

田辺中央病院 看護師 谷 津也子



今春、通信教育課程を修了し無事国家試験に合格しました。仕事と勉強を支えて下さった数々の方々に感謝しています。

仕事をしながら思うことは、看護をするのは何のために？を考え、立ち止まることで患者様にとってよりよいケアが出来、看護の意味を発見出来ると思います。私にとっての看護とは、患者様の気持ちに寄り添いその人らしさを取り戻すことです。

ケアの一つ一つの行動を振り返り、何の為にしているのかを考えてみる事で患者様の機微な部分や想いを感じ取り、患者様に寄り添ったケアが出来ると思います。看護ってそういう事ではないでしょうか。

しかし、簡単には答えが出ないのが看護です。患者様のことをどんな風に考え、出た答えを看護に移し、また考える。その繰り返しと、患者様が私を看護師として日々成長させてくれています。

リレーエッセイ

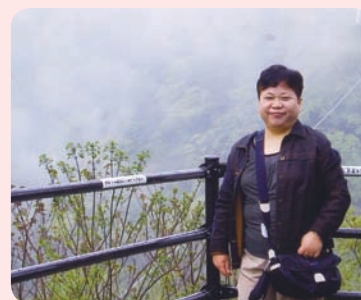
友達の

輪

Vol.42

訪問看護ステーション 桔梗 池 永 伸 子

30 年近く勤めていた病院を退職し、船旅で鋭気を養ってから、新たな気持ちで訪問看護を始めました。施設看護に限界を感じ以前からしたかった分野でしたので、意欲的に取り組んでいます。利用者や家族の方とゆっくりと向き合い看護することの楽しさを実感しています。ただ、田舎道を走らなければならず、運転が未熟なため、脱輪を 4 回もしてしまい、ときどきしながら毎日車を走らせています。



今回は、中谷病院 看護部長
小林 春子 さんをご紹介します。

My Hospital

日本赤十字社 和歌山医療センター

本センターにおいて平成 19 年 10 月から着工されました本館建設並びに既存棟改修工事は、平成 24 年 7 月をもって 4 年 9 ヶ月を要した全ての工事が皆様のご協力のもと無事終了いたしました。

看護部として、長年要望していた「スキルラボ室」が南館 3 階に開設され、今年度採用の新人教育に早速使用することができました。スキルラボ室では、シュミレー



看護部長 野上 利枝子

ション人形・モデル装置を利用することによって、臨床能力や手技の獲得のために、患者さんが受ける肉体的・精神的な負担や潜在的な危険（合併症）を避けるための実技の練習を繰り返し行うことが可能となります。患者さんやご家族に迷惑をかけないように、ラボ室を利用しまさに実際の現場を想定して、実技の練習を充分してから病棟にでる、ということが望めます。

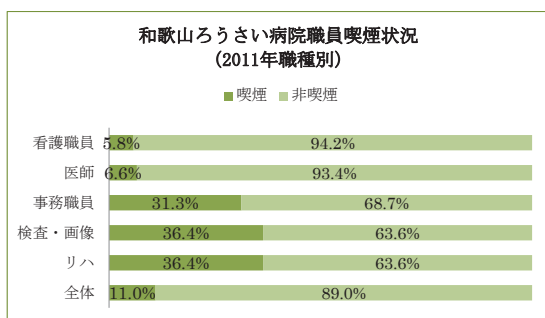
看護師の新人教育では、看護技術として、採血・点滴注射、基本的なスキンケア（ポジショニング、テープの貼り方、効果的な洗浄）等、フィジカルイグザミネーションでは病棟の指導者と重症集中・救急看護認定看護師、脳卒中リハビリ看護認定看護師と共にバイタルサインズの研修をおこないました。BLS研修では重症集中・救急看護認定看護師による急変時対応の研修をおこないました。ICLSコースの研修も実施され、医師、看護師を含む医療職 6 名が参加しました。

病棟の勉強会でも自由に使用しています。また、個人も時間外に自由に使えるよう使用範囲を拡大していきたいと考えています。

三 職員の禁煙対策について

和歌山ろうさい病院 看護部長 木村 美登利

当院では禁煙推進活動として、「啓蒙活動」「敷地内禁煙」「禁煙支援」の 3 つの取り組みを実施しています。過去のデータがありませんので、取り組みの効果については不明ですが、最近の喫煙率は下図のとおりです。



「啓蒙活動」と「禁煙支援」はセットで、主として禁煙外来の利用を推進していますが、職員の利用は年々

少なくなっているようです。

禁煙外来の禁煙成功率は 84% です。禁煙したい人は禁煙し終わったということでしょうか。今後は禁煙意思のない職員への動機づけが課題となっています。

個人的には、タバコの害を重々承知の上で喫煙する人に、無理やり禁煙を強いるのはどうかと思いますが、プロなら患者に喫煙者であることを悟らせない配慮は必要とも思います。そういった意味では、「敷地内禁煙」は大きな効果がありました。

平成 18 年の敷地内禁煙実施以降は、指先や毛髪からタバコの匂いをさせて、患者と接する看護職員はゼロになりました。

いつのまにか、道路をはさんだ向かい側のタバコ屋さんの屋根付き喫煙場所が院外分煙場所と化していますが、当然のことながら看護職員の姿はありませんので、当面これで良いのではないかと考えています。

まちの保健室

三向陽高校文化祭に参加



「まちの保健室」委員長 中村優子

9月10日(月) 県立向陽高校文化祭で「まちの保健室」を開催し、木村会長はじめ、委員6名、協力員3名が活動してきました。

この日は、和歌山市保健所からも展示物や各種測定・指導もあり、厳しい残暑にもかかわらず208名の参加がありました。

「まちの保健室」では、いつもの骨密度・体脂肪測定のほかに、高校生を対象に、「看護の仕事相談コーナー」を設け、白衣体験も企画し参加を呼びかけました。

終了後のアンケートでは、「看護により興味を持った」「人の健康が守れる」「白衣体験楽しかった」等の意見が寄せられ、看護職に関心を持って貰えたのではと思います。

高校での開催は初めてでしたが、今後も機会があれば、「まちの保健室」を通じ、高校生達に看護の素晴らしさをアピールしていきたいと思っています。和歌山出身の日本看護協会会長 坂本すが氏著「看護師の仕事につきたい!」を寄贈した。

三和歌山県看護教員養成講習会を開催しています

看護教員養成講習会担当 新屋博美

和歌山県看護協会では、今年度初めて県受託事業である看護教員養成講習会(8カ月コース)を開催致しました。参加者は21名で4月16日から開催しております。

現在、前半の座学はほぼ終了して、10月下旬から各看護専門学校の協力を得て、看護教育実習を予定しており、受講生は現在、授業案や実習指導案の作成に取り組んでいます。

受講生全員そろって修了出来るよう今後も支援して参ります。



三ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ開催

推進者 角谷知恵美

8月27日(月)、28日(火)で昨年度に続き、標記ワークショップを開催しました。

参加施設は昨年度からの継続が4施設、新規参加施設が2施設です。

27日午前はワーク・ライフ・バランス(以下WLBとする)について講義がありました。

午後から翌日にかけて、4施設は昨年からの取り組み状況の結果と今後の課題を、2施設は自施設の問題・課題とその優先順位を明確にしていく作業を行いました。次回 平成25年1月のフォローアップワークショップで4カ月の取り組みについて報告予定となっています。





25 年間、看護協会です務を担当して下さいました西ノ加奈子様が退職されました。

私は、平成 24 年 9 月 30 日をもって和歌山県看護協会事務局を退職致しました。

これまでの 25 年余りの永きに亘って、初代の松本会長様をはじめ 4 代の会長様にお仕えし、当看護協会の発展に寄与できましたことは、各会長様以下会員皆様方の暖かいご指導とご支援のお陰であると深く感謝致している次第であります。

現在、嬉しく感じていることは、研修センター完成当時 2,500 人であった会員が今では、5,500 人にも増大していることであります。

当看護協会が今後さらに発展されることと、会員皆様方の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

西ノ加奈子

和歌山県看護協会の動き

平成 24 年度 第 5 回 理事会

開催日時：平成 24 年 10 月 16 日（火）13：30～17：00
会場：B 室

○審議事項

1. 日本看護協会理事会からの課題について（承認）
 - 1) 日本看護協会の機関誌・誌の見直しについて（承認）
 - 2) 「会員名簿管理体制の改善」新体制構築について（承認）
2. 平成 25 年度和歌山県看護協会事業への提案・要望について（承認）
3. 新看護研修センター建築推進について（承認）
4. 事務局人事について（承認）
5. 日本看護協会への要望事項について（承認）
6. その他

○報告事項

1. 日本看護協会等関連会議報告

- 1) 第 4 回理事会・法人会会員
- 2) 平成 24 年度ナースセンター事業担当者会議
- 3) 日本看護学会運営会議
2. 事業進捗状況（各担当理事）
 - 1) 各委員会（常任・特別）
 - 2) 県受託事業
3. 県ナース章受章者について
4. 会員数について
5. その他
 - 1) ハヤヨミ・ジユクドク
 - 2) 県内関連団体会議参加報告
 - 3) その他

看護研修センター建設推進委員会報告

委員長 塩路 有理

去る、6 月 23 日の通常総会において新看護研修センターとして、海南の「トランスコスモス」購入の件は白紙撤回されました。

平成 24 年度、第一回委員会を 7 月 30 日に開催し以下の点を検討しました。

- ①「トランスコスモス研修施設」白紙撤回までの経緯の確認
- ②新看護研修センターの基本方針の確認

③新たな候補地の検討

トランスコスモス購入の件は、白紙となりましたが、新看護研修センター建設は必要という方針に変わりはなく、今後も検討を継続させていくこととなりました。広く会員の皆様にも情報の提供をお願いし、適切な物件を早急に探し、皆様に提示していく方針です。9 月 3 日に第二回委員会を開催し新たな候補地の情報収集を行うことを確認しました。

第 12 回

プレゼント!

みなさま、どしどし応募してください。

「足まくら」

を

2 名様に!

どちらか一つ
当たります!

「図書券」

1,000 円分を

2 名様に!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、11 月 26 日（月）までにお送り下さい。（消印有効・1 人 1 通のみ）
抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先

〒641-0036 和歌山市西浜 1014-27 和歌山県看護協会 「10 月号プレゼント」係

プレゼント

応募者の声

- 各コーナーで、勤務先・顔写真が載っていて読もうという意欲が湧きます。「私の〇〇」「友達の輪」が良かったです。
- 役員をして下さっている同級生の名前を見つけたり、いろんな場所で活躍している仲間を見るとうれしく、私も頑張らなくちゃと元気が出ます。

KANGOSHISHOKUNOUIINKAI

知って得する看護協会だより

第4号



●発行責任者／看護師職能委員長 東 直子 ●編集／看護師職能委員会

あなたのために、できること あなたに、できること

看護協会ではスキルアップのためにどんな研修が企画されているの？

◆新人教育（新人他施設合同研修）

看護専門職としての感性を養い、自己啓発の動機づけができるようことを目標とした研修

◆看護実践能力開発に関する教育

看護の知識・技術を深め、看護実践が展開できる能力、組織活動を理解し、リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる能力、看護専門職として、保健・医療・福祉のニーズに対応できる能力、看護専門職としての倫理観を理解し、職務が行える能力を養うことを目標とした研修

◆管理者教育

看護管理者として必要な知識・技術・人間性を身につけ、人材育成能力・問題解決能力を高めることを目標とした研修

◆認定看護管理者教育

多様なヘルスニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持向上寄与することにより、保健医療福祉に貢献することを目的としています

◆教育担当者の教育

和歌山県看護教員養成講習会

◆訪問看護職員教育

などさまざまな研修が企画、開催されています。

研修の詳細は、和歌山県看護協会 平成24年度教育計画に載っています。
興味のある研修が見つかるかもしれません。

【お役立ち情報】

日本看護協会ホームページでメールアドレスを登録すると、新着情報がメールで配信されます。
新しい情報をいち早く入手することができます。詳しくは、日本看護協会ホームページをご覧ください。

心地よい眠りで、あなたの元気を応援します。



東洋羽毛のゴア® 羽毛ふとん

汚れのもとになるものはふとんの中に入りません。

寝ているときの汗はこもりません。

まるでふとんが呼吸をするように

いつも衛生的で心地よい温かさを保ちます。

温かいを超えた至福の寝心地を、

是非お試しください。



東洋羽毛関西販売株式会社

和歌山営業所
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-12F
TEL 0120-32-7766

ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

清潔・きれい・衛生
Bedding Products